

研究開発課題説明資料（終了課題）

1．課題名（期間）

建築物の地震防災技術情報ネットワーク構築（平成 12 年度～平成 14 年度）

2．担当者（所属グループ）

杉田 秀樹（国際地震工学センター）

3．背景及び目的・必要性

多くの開発途上国では、社会的・経済的基盤の脆弱さに加えて、地震観測体制や建築耐震基準など地震防災に関する技術情報が不足しており、地震災害拡大の大きな要因となる。本研究では、開発途上国における地震災害の軽減に資するため、建築物の地震防災技術情報を収集・整理・分析し、途上各国への情報提供と双方向の情報交換を行うための情報ネットワークを構築する。情報ネットワークの構築に際しては、40 余年の国際地震工学研修で培われた途上各国の豊富な人脈と技術情報を十分に活用する。

4．研究開発の概要・範囲

開発途上国が自ら行う建築物の地震防災技術の研究開発を促進するための情報（地震被害の履歴、地震観測体制・観測施設、建築物の耐震基準、マイクロゾーニング）を収集整理分析する。さらに、これら地震防災技術情報を Web Site に組み込み、双方向での情報交換が可能となるような情報ネットワークを構築する。

5．達成すべき目標

建築物の地震防災技術情報を収集整理分析した結果を、双方向の情報交換が可能な情報ネットワークを通じて開発途上国に提供する。また、当該ネットワークが、国際地震工学研修生をはじめ世界中の技術者・研究者の情報交換と最新の国際的技術動向のサーチに活用されることを目指す。

6．研究開発の成果

- 1) ISEE-net Webpage (URL <http://iisee.kenken.go.jp/net/index.htm>)の構築：地震観測網(50 箇国分、一部著作権確認中)、地震被害履歴(124 箇国分)、建築耐震基準(47 箇国分と建築基準法改訂の参考資料)、マイクロゾーニング(事例 5 都市分と代表的手法の解説)を掲載。データ更新が容易なデータベース構造やインターフェースを工夫。
- 2) ISEE-net Webpage の運用状況：平成 14 年 5 月から一般公開、以降随時更新と拡充を実施。今後の持続的な運用を可能にするため、研修プログラムと連携した情報更新の仕組み作りや、研修修了生との連携確保のためのニュースレターの新規発行を実施。2003.1 Mexico, 2003.5 Algeria, 2003.5 宮城沖, 2003.5 Indonesia 地震の地震解析情報や関係機関へのリンクを充実して Webpage の利便性を向上。
- 3) 研究者や技術者からの参照状況(平成 14 年 6 月～15 年 5 月の集計)：外部アクセス計 1020 件(国内 258 件、国外 263 件、国不明 499 件)、研修生を含む内部アクセス計 2633 件。国外からの情報提供や協力の申し出を E メールにて 25 件受信。